

▶ 第5章

# リスクが蓄積している中国の金融セクター ——今後 10 年間の最大のリスクは不動産

大阪経済大学 経済学部教授

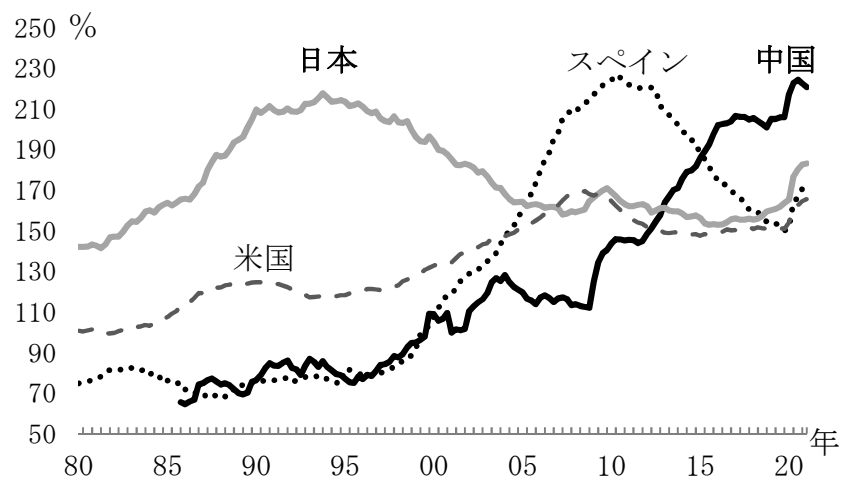
福本 智之

【ポイント】

- ▶ 中国の企業と家計の債務の経済規模対比のレベルであるマクロレバレッジは、世界金融危機後の 10 年余りで急速に上昇した。世界の先例からみると、既に危険な水域にある。
- ▶ それでも、中国の潜在成長率がまだ相応に高いこと、政府のコントロール力が強いことから、小規模なストレスが発生しても、全体として安定を保持する可能性は相応に高い。
- ▶ ただし、今後 10 年程度は住宅の主力購入世代の人口が減少に転じるため、不動産のリスクには特に注意が必要だ。不動産のリスクは、他の様々な金融リスクと密接に関連している。このほか、地方債務のリスク、市場に内在する政府の「暗黙の保証」期待からの移行リスクなどにも要注意だ。



主要国のマクロレバレッジの推移



資料：国際決済銀行統計を基に作成